

ナマズ まちの救助隊大きく 4支部が報告し活動交流

【本部・小路芳雄記】8月20日、東京土建本部会館で「まちの救助隊チーム NAMA ZU」第3回まちの救助隊全体会リーダーズ任命式が20支部35人の参加で開催された。

最初に芳井隊長（仕事対策部長）より、まちの救助隊をさらに大きく発展させようという意気込みを述べ、松高常任担当中執より「まちの救助隊の活動と災害対策」という地域建設者として災害における役割と任務、この間の各支部での取り組み、今後の取り組みの提起などを受けました。

休憩後、まちの救助隊リーダーズ任命式では、新宿支部の草木原竜介さんが若きリーダーズとして任命され、古怒田忠担当中執のあいさつで終了しました。



草木原さん(右)が代表して芳井隊長から任命書を授与されました

平山 26回の対市交渉 小東村 リフォーム助成や公契約

【小平東村山・書記・増田邦彦記】8月1日に行なわれた小平総行動に小平東村山支部から15人（全体45人）が参加しました。

小平総行動は、東京土建のほか19の団体と個人が参加する小平総行動実行委員会が行なう対市交渉で、今年で26回目を迎えました。小平市の年度予算編成前の担当課交渉が中心となるほか、教育委員会、昭和病院との交渉も行なっています。

リフォーム助成については、「要望として…」という回答でしたが、「創設市の研究はしているのか？」と追及し、「創設市の状況も研究した上で検討していく」との回答を引き出しました。公契約条例については、具体的な研究結果を示すように要望し「昨年、多摩市の視察を行なった。今年度も制定市の視察を行なう」との回答がありました。視察の結果は、継続して取り組んでいる2者懇談（東京土建・建設ユニオン・契約課）の中で報告を約束しました。

今月の主張

オスプレイはいらない

米軍普天間飛行場所属のオスプレイが8月18日、北海道で実施されている陸上自衛隊と采海兵隊の共同訓練に参加しました。

8月5日にオーストラリア東部沖で発生したオスプレイ墜落事故後、わずか2週間しか経っていません。道や関係自治体は参加自衛隊を求めていましたが、日本政府は米側の「安全を確認し飛行を継続する」との声明を無条件で追認しました。しかし、飛行の安全性を裏付ける根拠や詳しい事故原因は一切明らかにされておらず、今後、事故が起る懸念が無くなったわけではありません。

道民の不安をよそに、高橋はるみ北海道知事は「安全管理の徹底」を求めるとしただけで、飛行の容認も否認もしないと判断を避け、防衛省の通知を受けたただけだと述べています。

新聞8月19日電子版と批判の声が上がっています。

この間、開かれている日米両政府の外交・軍事担当閣僚による安全保障協議委員会（2プラス2）では、

北朝鮮の核・ミサイル開発への対処として日米同盟強化を宣言し、新方イドラインと安保法制に基づいた米軍と自衛隊の軍事協力の推進を打ち出しました。オスプレイについては「沖縄の負担軽減」を口実に全国への訓練移転の促進を確認しました。

北海道での演習も広大な演習場で訓練の実績を積み重ねることが狙いとみられます。東京の横田基地にはオスプレイ配備計画が発表されています。安全性が保障されない危険なオスプレイの日本国内での配備・飛行に強く反対していきます。



岡村主婦の会事務局長(左)、小池書記次長(奥)が北区教育委員会の浅香学校支援課長(右)と懇談

援助金前倒しを実現 北・主婦の会が粘り強く要請

【北・主婦・千葉理恵記】北支部主婦の会では昨年より子育て世代の要求を集め、北に要望を出しています。重点課題を2つに絞り、この度そのうちの1つである「中学校入学時就学援助金前倒し」が実現しました。

就学援助金の制度は一定の所得以下の世帯に「給食費」「学用品代」「修学旅行代」「体育実技用具費」「新入学生徒学用品」等が支給されます。きっかけは地域の主婦から「中学入学時は制服代など費用がかかる、自治体は新入学時に就学援助金の支給を行なうが夏頃支給されるので制服代などは一時的に立替えなくてはいけない。費用が捻出できないのでリボ払いで支払った」ことを聞きました。子育て世代はとにかくお金がかかります。「新入学にかかる費用をいざしれ支給されるのであれば必要な時にほしいはず」と考え重点課題としました。

私たちは教育委員会や区議会各会派や民間団体に繰返し、制度の必要性を訴え、その結果制度が実現しました。

8月8日、教育委員会浅香課長に制度実現のお礼を伝えるに訪問すると課長からは「以前から子どもの貧困対策はいろいろ検討していたが、皆さんからの提案と後押しでこの制度をつくることにしました」とうれしいコメントがもらえました。

次は7月の都議選で自民、民進、共産、公明が公約に掲げていた「学校給食費無料化」（まずは第3子以降無料化）実現運動に取り組みます。



小金井国分寺の「土建ワールド」を楽しむ親子

井寺 親子で語り合う 小国 平和夏まつりを開催

【小金井国分寺・石上・南哲司記】小金井国分寺支部は「平和夏まつり・第2回どけんワールド」を開催し87人が参加しました。

平和の企画として、①映画「火垂るの墓」上映、②国会前の集会動画の上映、③平和に関する4コマ漫画の掲示を行ないました。また、子どもが楽しむ企画として、①流しそうめん(小金井西部分会、ワンワールド)を開催し87人が参加しました。

②一口ピザ(後継者対策部、③木工教室(シニア友の会、④モザイクタイル(四役)、⑤どけんカレ(女性の会、⑥かき氷、ポップコーン、焼き鳥の飲食と運営側も多くの

仲間が盛り上げました。「火垂るの墓」を観た南雲信吾くん(小6)には、「小さいときは怖くてとちゅうで観ることをやめてしまいました。学校で戦争の話聞き最後まで観ようと思いました。戦争で家族を失うのはとても悲しい。絶対におきてほくない」と感想をもらいました。

今回の取り組みで土建が楽しい場所であること、「平和が一番なんだよ」と親子で話さすきっかけに思っています。

啄木や賢治も学び

5500人の熱意に感動

【日野・主婦・奈良環記】8月19日・20日に岩手県で開催された第63回日本母親大会に参加しました。盛岡駅に到着すると、駅周辺のあちこちに「歓迎日本母親大会」の横断幕、

感動して会場に入りました。初日分科会「啄木・賢治と憲法を語る」。第一部小森陽一さんの講演、第2部対談「石川啄木記念館館長と宮沢賢治記念館学芸員」の話で啄木・賢治の偉大さをあらためて感じ、2人の作品に生きた時代、その時代に思い悩み、危機感を感じ、それが現代に通じる

費用がかかる、自治体は新入学時に就学援助金の支給を行なうが夏頃支給されるので制服代などは一時的に立替えなくてはいけない。費用が捻出できないのでリボ払いで支払った」ことを聞きました。子育て世代はとにかくお金がかかります。「新入学にかかる費用をいざしれ支給されるのであれば必要な時にほしいはず」と考え重点課題としました。

私たちは教育委員会や区議会各会派や民間団体に繰返し、制度の必要性を訴え、その結果制度が実現しました。

8月8日、教育委員会浅香課長に制度実現のお礼を伝えるに訪問すると課長からは「以前から子どもの貧困対策はいろいろ検討していたが、皆さんからの提案と後押しでこの制度をつくることにしました」とうれしいコメントがもらえました。

次は7月の都議選で自民、民進、共産、公明が公約に掲げていた「学校給食費無料化」（まずは第3子以降無料化）実現運動に取り組みます。

アフリカの貧困にさらされる子どもたち。震災直後と現在の陸前高田市中心の人々の様子。自然災害や戦争で突然、日常の営みが奪われてしまっている。思い悩む日々。少しずつ平和な日常を取り戻しつつあるが、まだまだ時間がかかる現実。みんながこの現実を忘れずにいる事の大切さを痛感しました。

63回という会の歴史と全国にこれだけ多くの熱意を持って活動する女性がいることに感動しました。

母親大会・盛岡